

## 高天原岩石なだれ：黒部川源流・水晶岳西面の大規模地すべり

### Late Pleistocene to Early Holocene large landslides in Takamaga-hara, Mount Suisho of Hida Mountains

苅谷 愛彦<sup>1\*</sup>, 原山 智<sup>2</sup>, 松四 雄騎<sup>3</sup>, 松崎 浩之<sup>4</sup>

Yoshihiko Kariya<sup>1\*</sup>, HARAYAMA, Satoru<sup>2</sup>, Yuki Matsushi<sup>3</sup>, MATSUZAKI Hiroyuki<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 専修大学, <sup>2</sup> 信州大学, <sup>3</sup> 京都大学, <sup>4</sup> 東京大学

<sup>1</sup>Senshu University, <sup>2</sup>Shinshu University, <sup>3</sup>Kyoto University, <sup>4</sup>University of Tokyo

飛騨山脈中央部・黒部川源流域に存在する大規模地すべり（岩石なだれ）について、その地形・地質学的特性を報告する。この地すべりの発生域は水晶岳（黒岳）西面の凹型急斜面で、移動土塊は黒部川支流の岩苔小谷を埋めている。移動土塊の面積は約 1.53 km<sup>2</sup> 以上である。移動土塊表面には流れ山や閉塞凹地が発達し、湖沼や湿原が生じている。移動土塊はジグソークラックの発達した最大層厚は約 70 m 以上の礫層からなり、その推定体積は 4.6 × 10<sup>7</sup>m<sup>3</sup> 以上である。礫層に含まれる礫は水晶岳付近の山稜の基盤岩と一致する。礫層に含まれる 7 点の木片の <sup>14</sup>C 年代は 10.187 - 9.631 cal ka (2sigma) の範囲に及び、おおむね 9.9 cal ka で重合する。一方、地すべり発生域の急斜面で採取した砂岩の宇宙線照射年代は 4.2 - 3.2<sup>10</sup>Be ka、移動土塊表層の巨礫から採取した花崗閃緑岩は 68 - 40<sup>10</sup>Be ka と 21 - 12<sup>10</sup>Be ka を示した。なお、花崗閃緑岩の採取地は木片の採取地とはやや離れている。同地の地すべりは、最終氷期（MIS4 - 3）や晩氷期（MIS2）、および完新世初頭（MIS1）に複数回生じた可能性がある。最終氷期や晩氷期に大規模地すべりが生じた場合、岩苔小谷を流下していた氷河上に岩屑が落下したことも想定される。